

年頭のご挨拶

国立研究開発法人産業技術総合研究所理事
地質調査総合センター長
佃 栄吉

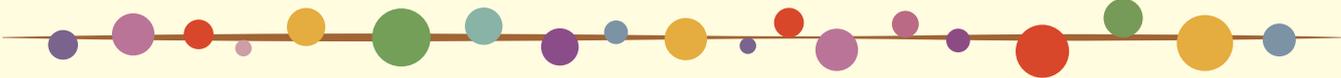
新年あけましておめでとうございます。

地質調査 総合センター（Geological Survey of Japan：GSJ）は1882年農商務省地質調査所としての発足以来，社会のニーズと密接に研究活動を展開してきました。今年で創立134年目となります。近年はエネルギー・資源開発，環境保全，防災の3つの大きな社会的課題に対して研究活動を続けています。それらの基礎であり，GSJが唯一の国の機関として責任を負っているのが地質情報の整備で，国の知的基盤情報の一つとしています。設立当初より地質図作成として継続してきていますが，最近はデジタル化されたデータベースも多くなっています。放射性廃棄物の地層処分，CO₂地中貯留，海域のメタンハイドレート・鉱物資源開発，地熱開発，原子力発電所の重要インフラ立地などの環境・災害リスク評価のための重要な基礎情報として社会に提供しています。また，我が国の大都市平野部や沿岸域の地質情報の整備を重点的に行っています。そのための観測，計測・調査技術の高度化はもとより，地下の地質情報を可視化し，よりわかりやすい情報として表現し，リスクコミュニケーション情報として，政策決定者のみならず，一般国民の判断に使えるものとしていくことが重要と考えています。

昨年，初めて脳ドックを受け，自分自身の核磁気共鳴画像法（magnetic resonance imaging, MRI）や磁気共鳴血管画像（MR angiography, MRA）による画像を初めて見ました。写真はその一つです。それほど脳が萎縮していないというので安心してお見せしています。MRI・MRAはCT画像とともに医療では当たり前のように使われている技術です。ドックの終わりに，種々の画像を観ながら，今後どの程度，何を注意しておくべきかの説明を受けました。私のMRIの画像はソフトとともに購入し，



MRI画像。様々な角度から，また様々な位置の断面を見ながら，医師とリスクコミュニケーションを行った。



自分で自由に回転させながら家族にも見せました。医療の世界はここまで進んできたのかとあらためて実感することができましたが、地球科学を見てみるとまだまだ遅れていると残念ながら思っていました。一戸建ての家を購入すると、通常、設計図や配線・配管など設備の配置図が提供され、将来の修理や改修に必須の情報として保管されていると思います。将来はこれに地下の健全性を示す直下及び周辺の地質地盤、地下水や環境情報が3次元的にわかりやすく示したものが家や宅地を売るための重要な付加情報として、社会に実装されるものとなるのでしょうか。土地の価値を決める重要な情報の一つとして、強靱な社会構築のためには是非活用されるようになって欲しいです。

2011年 東日本大震災のあと少したって、地下鉄の吊り広告に「あなたは一生で一回の買い物をギャンブルとしていませんか」というのを目にしました。住宅を買う前には災害リスクをちゃんと調べて買ひましょう、我が社はちゃんとした情報のもとで開発しています、ということらしいです。その会社がどこまで「ちゃんと」しているか不明でしたが、ギャンブルという言葉が気になりました。よくよく考えてみるとギャンブルとはいえ、競馬では馬券を買う前に、馬の血筋、経歴、調教師、最近の調子や騎手は誰かなど普通はよく調べます。非常に高額で多くの人にとっては一生に一度の買い物である住宅の購入がギャンブル以下になっているのではないのでしょうか。

地質地盤情報 の公開性、利便性を考えるとまだまだ多くの課題があります。信頼性の高い、わかりやすい画像を3次元的に示す手法の開発を官民でできるだけ早く進めることが重要と思います。大都市の地下情報として重要なボーリングデータの公開を進めるため、日本学術会議地球惑星科学委員会から「地質地盤情報の共有化に向けて—安全・安心な社会構築のための地質地盤情報に関する法整備—」を平成25年1月に提言しました。今年の1月23日には日本学術会議において「強靱で安全・安心な都市を支える地質地盤の情報整備—あなたの足元は大丈夫?—」と題して公開講演会が開催されます。是非多くの方々にご参加いただき、地質地盤情報が、国民の暮らしの安全・安心と社会・経済の持続的発展を支えるための必須の身近な情報となり、地下の可視化が進展するための今後の方策について、広範で活発な議論が展開されることを期待したいと思います。